

特集 ふれあい・いきいきサロンの新たな展開

住民が地域が支え合う福祉のまちづくりをめざして

高齢者や障害者、子育て中のお母さんを対象に様々な「サロン」が地域の中で活動展開中です。また最近では、利用者の枠にとらわれない「複合型サロン」も出てくるなど、地域のニーズに合わせて多様な取り組みが開発されています。

そこで今回の特集は、新しい試みで運営されているサロンを紹介し、その特徴や活動のポイント、さらにはサロンが地域で果たす役割などについてまとめてみました。

区民が自分でつくり、運営する「ふれあい・いきいきサロン」

世田谷区社会福祉協議会(東京都)
<http://www.setagayashakyo.or.jp/>

区民と社協、行政が協働で福祉のまちづくり

世田谷区では住宅地域が多く地域の帰属意識が低いので、住民に対し「ふるさと意識」を持てるようなイベント等を行っていた。一方、高齢化が進み、全ての福祉サービスを行政施策で補っていくには財政的にも、サービス提供のあり方としても限界があることから、平成6年、行政主体ではなく区民が力を活かしながら、地域の身近な場所で福祉サービスを提供する「地域支えあい活動の助成事業」がスタートした。

区民がお互いに助け合って、高齢者を支援するというこの事業では、介護教室やお茶会を地域の中で開くなどサロンの原型をなすもので、3年間サンセット事業として展開。事業終了後も、サロンを望む声が強かったことから、地域によっては区民の自主活動として継続するにまで発展した。

さらに平成9年には、行政と区民との協働を通して、それぞれの特性や役割を發揮しながら地域課題を解決するという、「新しい公共」の推進が、区民代表も参画する保健福祉審議会から答申された。こうした区民の意識の高まりと行政の方針を背景として、平成10年、同社協は「ふれあい・いきいきサロン事業」をスタートした。

コミュニティワーカーが地域をサポート

同サロン事業では、「気軽に・無理なく・楽しく」をスローガンに、高齢者の閉じこもりを防ぎ、地域で見守り・支え合う「ふれあい・いきいきサロン」、これに食事サービスや介護予防などを加えた「支えあいミニデイ」、子育てお母さんのリフレッシュのための「子育てサロン」の3つの取り組みを行っている。現在のサロン設置状況はそ



れぞれ212カ所、63カ所、32カ所で、これらは全て区民がV活動で運営している。

社協では、活動補助金や会場費、独自に開発した「支えあい活動保険」加入のほか、Vスキルアップ研修などの支援を行っている。そして、区民のサポート役として最も重要な役割を果たしているのが、「コミュニティワーカー」(以下、ワーカー)と呼ばれるサロン担当職員である。ワーカーは区内3カ所の地区社協に配属され、サロンの立ち上げに関わる専門的なアドバイスから、継続のためのきめ細かい相談を行っており、平成10年の設置以来、飛躍的にサロンが増えたことから存在の大きさがうかがえる。また、毎月1回行政職員も参加するワーカー会議も実施し、地域の課題を共有するとともに、区民・社協・行政とのパートナーシップを実現している。

岐にわたっています。サロンの効果としては、地域の身近な場所に相談できる場所ができたことと、サロンを通じて地域の団体・機関・行政との協働が生まれたこと。また、サロンに子どもたちが関わることで世代間交流や福祉教育の場にもなっています。最近では、あるサロンで企画を立てた時に、他のサロンにも呼びかけ合同で実施したり、連絡会を作るなど、サロン同士のネットワークも生まれてきました。このように、サロンが当初の想像を超えた「自律型」で発展してきているなかで、社協がどのように住民と協働していくべきか。さらに、スタッフの世代交代や、プログラムを展開するうえでのコーディネートなど、サロンによってはご苦労されている課題もありますので、今後は、人と人をつなぐ「マグネット」としての役割を、私たちワーカーが担っていければと考えています。

マグネット役として人と人をつなげていきたい
世田谷区社会福祉協議会
世田谷地区コミュニティワーカー 阿藤 京子さん

世田谷区ではこれまで、住民自治を目的とする様々な事業を通して、「きっかけがあればV参加したい」とする住民が4割を超える意識結果が出るなど、全国的にもV活動意欲が高い地域となっています。そうした地域性を背景に、「サロン」という「誰もが気軽に楽しく」参加できる取り組みを展開するなかで、ワーカーは直接窓口として区民の皆さんと接してきました。

現在、私を含めて8名のワーカーが区内3地区でサロンの支援活動を行っています。サロン立ち上げのための会場手配をはじめ、プログラム案内のチラシづくりや配布、活動内容に関する相談など、支援の内容は多

高齢者も子どもも障害者も気軽に集まる憩いの場

特定非営利活動法人「トトコの家」(石川県内灘町)

家族の健康を住民みんなで考えよう

地域の有志20名を中心に、平成13年4月に発足したトトコの家は、10年前に結成された「健康で楽しく暮らそう内灘の会」を前身とする。同会は、地域住民約100名を会員として、栄養や介護に関する勉強会のほか、花見やバス旅行などの親睦会を行ってきた。

さらに、介護保険施行を前に、町内で様々なシンポジウムを開催する中で、「せっかくの勉強会を会員限定で行うのはもったいない。地域にボランティアの輪を広げよう」との提案を受け、高齢者だけでなく子どもから障害者まで気軽に交流を楽しめるサロンとして民家を拠点にスタートした。

さらなる活動の輪を求め、NPO法人を取得

週2回の開所日には、高齢者同士で手作り工芸や世間話などを通じての交流のほか、小学校児童が授業後、気軽に立ち寄り場となるなど、多いときには約30名も集まり大盛況。また、「大きいお風

呂を楽しみたい」という利用者の要望を受け、町営温泉への入浴サービスもプログラムに加わった。

一方、1年数ヶ月の活動を通して、元気な高齢者が訪れる中で、介護保険に認定された利用者も増えてきた。しかし、「他の利用者に迷惑をかけるのでは」「昼食は粥しか食べられないから」と通所を遠慮する高齢者も出てきたので、より活動に広がりを持たせるためにも、NPO法人を取得することが必要と、新たに看護師やヘルパーを雇用。7月に認証を受け、要介護者を対象としたデイサービスを開始した。

現在は週2日の生きがいサロン(利用料500円)と合わせて、毎週日曜日以外の週6日午前9時30分～午後4時まで、ボランティアによる手作り昼食や入浴、健康チェックやレクリエーションなどで通所介護を行っている。



トトコのお彼岸は、お団子づくり

「ITカフェ」で高齢者がパソコンに挑戦!

日吉台の福祉を語る会「あじさいくらぶ」(滋賀県大津市)
<http://www.geocities.co.jp/SweetHome-Ivory/3569/>

ボランティアの協力を得て活動拠点が完成

約5,000人が居住する日吉台は、20年以上前に開発された新興住宅地で住民の高齢化が地域課題となっていた。そんな中、地域の有志25名が集まり、「どんなときも住み慣れた家で暮らせるような地域づくり」と「誰もが気軽に利用でき、楽しく支え合える福祉拠点づくり」を目的に、平成4年、公民館の自主活動サークル「あじさいくらぶ」を結成。

老人会との交流会や高齢者のおしゃれ講座などを実施する中で、高齢者から「おしゃべりの場」を望む声が多かったが、平成6年に、



夏休みを利用して囲碁・将棋教室を開催

10時～15時まで昼食をはさんでいつでも参加できる「あじさいサロン」を開設。平成11年には、介護福祉士の協力も得て「ケアルーム」を開設し、在宅介護が必要な家族や、家の中で孤立しがちな高齢者との交流支援を行ってきた。

しかし、これらすべて公民館と集会所を借りての活動だったため、常時開放できる交流の場が必要となってきた。そこで、大津市社協の助成事業に応募。助成対象となったものの、バリアフリー化の改造可能な家探しに難航する中、地域の方が倉庫にしていた空き家の一部を提供。バリアフリー化をはじめ、室内リフォーム、不用品家具の調達など、多くのボランティアの協力を得て、平成14年、念願の活動拠点「あじさいの家」が誕生した。

男性ボランティアが個別にパソコン指導

あじさいの家では、いつでも気軽に立ち寄れる常時開放サロン「喫茶室」を新たに開始。週2日、10時～15時オープンの喫茶では、美味しい飲み物のほか、囲碁・将棋など趣味の部屋を設けるなど、アットホームな雰囲気でも年代を超えた交流の場となっている。

また、高齢者のIT化をサポートすることと、男性Vの参加、幅広い年齢層の参加を目的に、今年4月からは「ITカフェコーナー」も設置。「ワードで俳句を書いてみたい」「旅行の際にインターネットで情報を得たい」など予想以上に受講希望が多いことから、講師である男性Vが自主的に公民館と交渉し、カフェを移転。年末を迎えた現在では、50代～80代までの受講者がパソコンを使った「年賀状づくり」に挑戦している。さらに今後は、IT講座を実施し、V講師や離れた家族とのメール交換を計画している。

ふれあい・いきいきサロンは地域の中で人と人とを結ぶ交流の場!

そもそもふれあい・いきいきサロンってなにか、サロンは地域の中でどんな効果があるのでしょうか。また、サロン活動の輪を広げるためには、社協にどのような支援が望まれるのでしょうか。ここでは、実際の活動者と社協スタッフのお話を参考にして、ポイントでまとめてみました。

サロン活動3つのポイント

地域の誰もが参加できる憩いの場

高齢者や障害者、子育て中のお母さんだけでなく、サロンは地域の誰もが・楽しく・気軽に参加できる「憩いの場」。公民館や住宅団地の集会所、個人宅など、地域の身近な場所を活動場所としてもいいし、場所を限定しない「お花見」「散歩」なども立派なサロン活動である。昼食や喫茶をとりながら、レクリエーションやゲーム、健康体操、おしゃべりなど、各サロンごとに自由に無理なく楽しめる場であることがポイント。

住民の誰もがボランティア

高齢者や障害者のおしゃべり相手、食事づくりや散歩の付き添い、介護や栄養面の専門的なアドバイスなど、サロンでのボ

ランティアの役割は多種多様。時には利用者自身がボランティアとなり、子どもたちに手芸、伝承遊び教室等を開催することもあるなど、ボランティアと利用者の区別なく、住民の誰もが主役として活動できる場である。

形にこだわらない

サロンの活動目的は様々だが、どんなサロンをつくるにせよ、形にこだわらず、その地域や生活者にあった場をつくり出すこと。また、たまたま訪れた人であっても楽しく参加できるような雰囲気づくりや、利用者もボランティアも楽しめる活動メニューを心がけ、地域に根ざした交流の場であることが大切。

サロンができてこんな変化がありました

利用者が元気になった。近所づきあいが増えた

利用者から「お互いに誘い合っ出て出かけるようになった」「健康に気をつけるようになった」の声があるなど、高齢者や障害者の引きこもり防止や、やりがい・生きがいにつながっている。また、独りきりで家にいる時間が少なくなったことで、防災・防犯対策にもなっている。さらに、「話すことが楽しくなった」「あいさつや立ち話をするようになった」など、サロンでのふれあいを通して、顔見知りが増え、地域の中で住民同士のコミュニケーションが増えてきた。

地域の中で協働関係が生まれた

あるプログラムを実施するに際して、地域の専門家を講師に招いたり、総合的な学習の時間を利用して、学校の子どもたちがサロンでボランティア体験を行うなど、サロンを通して地域の様々な機関・団体との協働関係が生まれてきた。

地域の福祉やボランティア活動に対する意識が高まった

専門的な施設とは違い、サロンのように気軽に立ち寄れる場所が地域の身近な所に点在することで、安心して暮らせる町へと変化した。また、スタッフやボランティアとして地域の多くの方たちが関わる機会が増え、地域で支え合う機運が生まれ、地域全体の福祉力アップにつながっている。

情報発信・情報交換の場になった

「ここでの情報が日常生活に欠かせない」の声もあるなど、見逃してしまいがちな地域の福祉サービス情報を得ることができる。また、同じ課題や悩みを抱える利用者同士が交流できる場ができたことで、利用者やその家族にとって心身のリフレッシュにつながっている。

社協に求められる支援とは？

サロン活動へのきっかけをつくる

サロンの意義や成果などの報告・事例を広報誌やイベントを通して、広く伝えていくことで、地域住民に対し、サロン活動に取り組むきっかけをつくる。また、活動を望む人に対して、助成金やボランティア活動保険、行政へのアプローチの仕方など、細やかな相談に応じ、立ち上げを支援する。

活動継続のための側面的な支援

ボランティア参加をはじめ、地域の施設、病院、医療・福祉関係者、民生委員・児童委員等の専門的な人材など、地域における社会資源とサロンをつなぐとともに、サロンと協働して福祉のまちづくりを担っていく。また、住民が主体となって活動を継続していくよう、ボランティアのスキルアップ研修やサロンリーダー交流会等を開催し、活動プログラムの充実や意見交換等の調整を図る。

第1回ふれあい・いきいきサロン 全国サミットが開催されます

現在、2万グループを超えるふれあい・いきいきサロン活動が展開されるなか、第1回となる全国サミットが開催されます。当日は、「地域福祉の切り札はこれだ!」を総合テーマに、全国のサロン関係者、関係団体が集まり、サロン活動事例の紹介や情報交換、交流を行うなど、サロンの新たな展開を考え合います。

平成14年12月14日(土)10:00~16:30

(会場)東京都・世田谷区民会館集会所ほか

(プログラム)活動事例発表・情報交換等

平成14年12月15日(日)10:00~16:15

(会場)東京都世田谷区・国士舘大学ホール

(プログラム)

・講演会 竹内孝仁氏(日本医科大学教授)

和田敏明氏(全国社会福祉協議会事務局長)

・シンポジウム「まる見え! ふれあい・いきいきサロン~サロンはing(進行形)」

応募締切:平成14年12月10日(火)

参加お申し込み先

京王観光(株)東京中央支店 TEL.03-5351-7161

お問い合わせ先

世田谷区社会福祉協議会 地域福祉部

TEL.03-3419-2172

http://www.setagayashakyo.or.jp/

Eメール shakyo@basil.ocn.ne.jp